

特別講演会

「ピッツバーグの転生」から見える「現代アメリカ」

講師：渡邊孝

—講師紹介—

紹介文協力：加藤忠一（淡彩画家）

Pittsburgh

Pennsylvania

Then and Now

講演者渡邊孝さんは、私の尊敬する先輩である。彼は1940年岡山県生まれで、工業高校卒業後旧富士製鉄に入社、広畑製鉄所でブリキラインの立上げに従事、その後淵野辺の中央研究所に異動した。研究所では表面処理研究に携わり、早くに技術士、工学博士号（東京工業大学）を取得するとともに、論文賞、市村賞、発明協会賞を受賞する業績をあげた。旧新日鉄を退職後アメリカ・シリコンバレーに移り、磁気ディスク開発と事業化に関する業務に従事、MYG ディスク取締役を務めるなど世界的活動を行った。リタイア後は「アフリカの少数民族の生活現況、野生動物保護、教育問題、環境問題、鉱物資源戦争などの問題調査」に20年ほど取り組み、講演・著作などを通じて発信してきた。2017年には日経新聞文化欄で「アフリカおじさんの警鐘」として紹介された。ここ数年はかつて住んだアメリカを何度も訪れ、その変化ぶりを調べてきたが、最後の訪問先としてかつてのわが国鉄鋼業の師であったU.S.Steelの本拠地ピッツバーグの変貌ぶりを5月に調査されてきた。

—ラストベルトの再生から社会インフラの強靱化に向けて—

アメリカのラストベルト（Rust Belt・錆びついた工業地帯）は、製造業の海外移転や人口流出を経て、現在は産業の多角化（医療やITなど）を進めつつある。特に、ピッツバーグ（ペンシルベニア州）は、伝統的な鉄鋼の街から、ロボティクスやAI、医療などの先端産業都市へと見事に転換した代表例といえる。全米でも住みやすい街、美しい街へと転生したピッツバーグの今をスライドショーで紹介し、「今・なぜピッツバーグ」なのかを参加者とともに考えたい。



6月は喫茶去7にて、『ピッツバーグの転生から見える現代アメリカ』についての特別講演会を開催いたします。不安定な世界情勢が続く今、実際にアメリカ・ピッツバーグを調査されてきた渡邊孝さんのお話に触れる時間は、私たちの日常や社会の見え方に新たな視点をもたらしてくれるかもしれません。専門的な知識の有無にかかわらず、どなたでもご参加いただけます。地域の皆さまと共に耳を傾け、それぞれの思いを巡らせるひとときになれば幸いです。ぜひお気軽にご参加ください。

開催日：令和8年6月25日（木）—入場無料—

開演：14:00～（開場：13:30）

会場：社会福祉法人悠朋会 千代田7丁目センター1F 喫茶去7

住所：相模原市中央区千代田7丁目12-13

◇栄公園前バス停から徒歩2分◇相生3丁目バス停から徒歩1分

【周辺地図】

